

みずの森フォトコンテスト2025 審査結果

※入選は、上から五十音順です

賞	作品タイトル	名 前	住 所
草津市長賞	雨上がり	井口 達也	滋賀県近江八幡市
草津市立水生植物公園 みずの森園長賞	錯綜	筒井 浩	滋賀県大津市
金 賞	悦楽	井口 美智代	滋賀県近江八幡市
銀 賞	誘われて	西山 秀一	滋賀県守山市
銅 賞	真紅の涙	川邊 有希子	滋賀県守山市
佳 作	蓮影	福永 弥	東京都大田区
佳 作	空中散歩	田中 七子	滋賀県草津市
佳 作	時間ですよ(Ⅰ)	藤田 静子	滋賀県守山市
入 選	蒼き祈り	有田 博	大阪府茨木市
入 選	冬の夢心地	五十嵐 祐介	滋賀県草津市
入 選	冬の光の中で	上原 周	京都府京都市
入 選	アロワナ	小川 正一	滋賀県近江八幡市
入 選	静寂幻想	小川 武司	滋賀県東近江市
入 選	みつめる	小蔵 武三	滋賀県草津市
入 選	シダレエンジュの中で	片桐 安末香	滋賀県草津市
入 選	風の吹くままに	久保田 雄治	滋賀県大津市
入 選	真夏の夜の夢	佐ヶ野 広子	滋賀県大津市
入 選	はじける夏	佐々野 京子	滋賀県草津市
入 選	夏空に映える	塩見 芳隆	京都府京都市
入 選	雨やどり？ひなたぼっこ？	嶋田 学	滋賀県大津市
入 選	光の雫	下田 真由美	滋賀県大津市
入 選	蓮さん、こんにちは！	高橋 幸男	京都府京都市
入 選	棘	田村 勇人	滋賀県草津市
入 選	華を添える	寺尾 幹男	滋賀県草津市
入 選	幸せのハーフ&ハーフ	中山 純子	大阪府大阪市
入 選	迷路	百武 忠	滋賀県大津市
入 選	見事な配置	藤井 勝	滋賀県草津市
入 選	夏色の命	藤原 厚士	滋賀県守山市
入 選	深紅のきらめき	前田 真吾	大阪府豊中市
入 選	秘密	松村 里子	滋賀県草津市
入 選	兄弟の隠れ家	森本 茂	京都府舞鶴市

みずの森フォトコンテスト 2025 作品展審査講評

今回のコンテストでは、「水生植物公園みずの森」の持つ魅力を、それぞれの視点と感性で丁寧に切り取った作品が数多く寄せられました。植物の繊細な美しさ、生命の力強さ、人と自然が交わる一瞬のきらめき、それらが写真を通してやさしく語りかけてきます。以下、受賞作品について講評いたします。

○ 草津市長賞 『雨上がり』

雨上がりのアイスチューリップに残る一粒一粒のしずくの中に、まるで小さな別世界が閉じ込められているかのような印象的な作品です。しずくの存在を主役として丁寧に捉えながら、背景をチューリップの赤で美しくまとめることで、画面全体に統一感と奥行きが生まれています。自然の一瞬の表情を見逃さず、確かな技術と感性で形にした点に、作者の力量が強く感じられました。静けさの中に確かな美を宿した、心に残る一枚です。

○ 草津市立水生植物公園みずの森 園長賞 『錯綜』

白黒で表現されたサボテンが、画面の奥からこちらへ迫ってくるような強い存在感を放つ作品です。色を排したことで形や質感が際立ち、サボテンの持つ生命力や緊張感がより鮮明に伝わってきます。複雑に絡み合うフォルムがリズムを生み、見る者の視線を引き込んで離しません。植物の持つ力強さを、独自の視点で見事に表現された意欲作です。

○ 金賞 『悦楽』

アップで捉えられた昆虫の表情がとても印象的で、まるでこちらに何かを語りかけているかのような親しみを感じさせる作品です。小さな被写体でありながら、その存在感は非常に大きく、自然との距離がぐっと縮まるような感覚を覚えます。鋭い観察力と的確なタイミングによって、生き物の魅力が素直に引き出されています。見る人をやさしく自然の世界へ誘う一枚です。

○ 銀賞 『誘われて』

みずの森のシンボルともいえる噴水を舞台に、無邪気に遊ぶ子どもたちの姿を捉えた、明るく伸びやかな作品です。写真からは、楽しそうな笑い声や水しぶきの音まで聞こえてくるようで、その場の空気感が生き生きと伝わってきます。自然と人が触れ合うみずの森ならではの魅力が素直に表現されており、見ている側の心まで明るくしてくれる一枚です。

○ 銅賞 『真紅の涙』

真紅の花と雨のしずくを大胆なレイアウトで構成した、印象的な作品です。色の強さとしずくの繊細さの対比が美しく、画面に強い印象を残します。雨のしずくの配置にも工夫が感じられ、作者の意図がしっかりと伝わってきます。もう少し被写体に寄った表現であれば、さらに迫力が増したかもしれませんが、構成力の高さが光る一枚でした。

○ 佳作 『蓮影』

みずの森には人物撮影にも適したスポットが多く、その可能性を感じさせてくれました。これからさらにさまざまな表現に挑戦し、作者ならではの世界を広げてほしいと期待が膨らみます。

○ 佳作 『空中散歩』

カモが空中を舞う一瞬を見事に捉えた、躍動感あふれる作品です。タイミングの良さはもちろん、公園の魅力が自然に伝わってきます。動きのある被写体を的確に捉えた、完成度の高い作品ではありますが、描写の統一感という点でさらなる工夫の余地も感じます。

○ 佳作 『時間ですよ(Ⅰ)』

一日限りの命をもつハナトケイソウを、静謐な集中力で写し止めた一枚。中心から放射状に広がる花糸は、時間のうねりのようにも見え、開花の瞬間に立ち会えた作者の感受性と偶然性が美しく重なっています。

どの作品からも、みずの森を大切にみつめる温かなまなざしが感じられました。

今後もそれぞれの感性を大切に、写真を通して新たな魅力を発信していただけることを楽しみにしています。